

みなしご通信

3月

ツキノワグマのカツが新加入

2020年11月20日
栃木県那須烏山市の林間住宅地に1匹のツキノワグマの子どもが現れました。膠着状態の末約3時間後、ツキノワグマの子どもは無事保護されました。保護されたのはこの年に生まれた子グマ。それから那須烏山市は山に帰っても《ひとりで生きていくことができる月齢でないこと》を考慮して引き取り先を探すことに。県内・関東圏・西日本：全ての動物園から断られた那須烏山市は環境課と協働で野良猫TNR一斉をしている犬猫みなしご救援隊の存在を思いつきました。

私の元に那須烏山市から引き取りの相談がきたのは12月5日。さすがに相手はクマですから総動員で引き取るや否やの協議をし

ました。そして『やってみるか』ということに。ついに12月21日栃木拠点に到着しました。クマだということだけで丸々1ヶ月間移動許可すら出ず市役所内で待機するしかなく、弱っていました。1ヶ月の間、子グマは緊張したままずっと4本足で《立ったままの姿勢》を貫いていたとのこと。栃木拠点で引き取ってからどうにか子グマは元気を取り戻しました。2日後私は子グマと初対面♪子どもとは言えさすがクマ：ものすごいオーラ。爪は鋭く絵に描いたようでした。

うちのケージより那須烏山市役所内で1ヶ月入っていた檻の方が安心するみたいだったので『この檻は借りたままにしよう!』そして山と同じ環境にしよう



思つて試しにワラを入れてみるとその上で寝てくれました。《寝る幸せ》これは何にも代えがたいものです。《寝床作戦》は大成功♪

私には子グマを馴らすという考えはモウトウありませんが攻撃されない関係性はきちんと構築せねばなりません。お次は《食べ物作戦》を試みました。子グマに《いいこと》を覚えてもらいます。このオバサンの手は美味しいものを与えてくれるからこのオバサンの手は《敵ではない手》これを完璧に覚えてもらおうまで私は手から食べさせることを続けました。

そして《不妊手術》犬だって猫だって鹿だって猿だっ

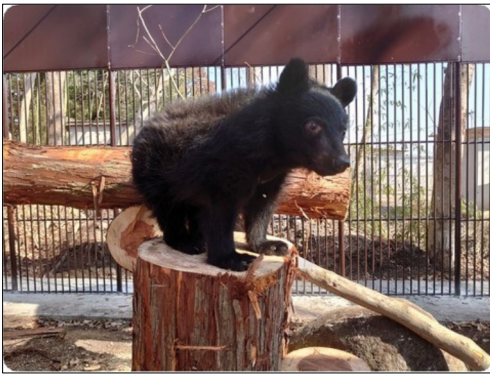
て小さい時に不妊手術をすればその時点で精神的な成長が止まりかわいらしい子どもそのままだけが大きくなっていくことになるので動物と人間が互いによく暮らしていけます。不妊手術の日、麻酔がかかってからお腹を見て子グマは男の子だとわかりました。

『名前負けする』というジンクスを信じきっている私は子グマが優しい子に育つてくれることを願いあえて強い名前《カツ》これが子グマの名前です。麻酔が効いている間に一生に一度っきりの抱っこをしました。軽い!これが私の感想です。体重を測定したら8kgしかなかったから。

去勢手術を終えたカツには少しづつ人間と暮らすことを学習してもらい私たちもストレスを与えないよう接し方や環境をいろいろと改善。ポン菓子は大好物で指先に1粒乗せると上手に舌で舐め取って食べてくれます。舌はやたらと細長く木の幹の中にいる虫を食べ

るために進化したんだなと思えます。カツには毎日『人間は悪くないんよ』と教えていきました。私はなるべくカツのそばで寝転がるようにしました。カツは自分から私の近くに来るようになりました。

何を食べさせるか大きな課題でしたが私が子どもの頃にクマを飼っていたオジサンが「肉の味を覚えさせちゃダメじゃねえりんごを食べさせとる」と言っていたのを思い出し主食はりんごに決めました。そのほか小松菜は茎、虫の代わりはいりこ、りんごはしっかりと洗って頭とヘタを取り除いてイン。本にはクマはジャガイモが好きと書いてありましたがカツは食べません。サツマイモやキクイモは食べます。キャベツやレタス類はまったく食べません。果物ならなんでも大好きです。大根は食べなくてはいいけど好きではないので最後は大根だけが残り白一色になります(笑) こんな感じの《カツごはん》を1日2



食。おやつはポン菓子やカステラ類・蜂蜜も大好きだから舐めさせています。そして私が一番大事にしているのが授乳時間です。カツは授乳が必要な月齢でもないけれどクマも哺乳類ですからね。牛乳を1日に2回《すいのみ》で。幸せそうな顔をしてチュウチュウ飲みます。そして眠気が起きます。ひろしと同じです。

カツの獣舎の設計は私と田原くん、施行管理はいつもの小出の大宮さん。なるべく自然に近いものを作りたかったのであえて屋根を付けず日が差して風が吹き雨も降る遊び場にしました。基礎の周りをコンクリート

で囲いオール鉄の超・重い獣舎フェンスのスペンは5cm。木にも少しだけ登れるように鉄板で返しを作りました。南京錠の鍵は中から外からも使える仕様。外から開閉できる扉は年をとってもラクラク動かせるように滑車もつけてます。もちろん水道も完備です。電灯だけでなくエアコンもカメラもつきます。床面を水洗いして乾かないことを想定し寝床となる獣舎は左右に2室。私の的確な指示『カツが退屈しないもの』の一言で田原くんが楽しい遊具を考えてくれました。栃木県からはクマの獣舎として合格をもらいました。

獣舎デビューする日。まだまだ小さな子グマです。クマは3年で成獣になるのだそう。羨ましいぐらい運動能力は高いです。手と足とクチを使ってウマイこと登ります。が下りるのは苦手なようです。1回30分の練習から始め何日か経つてようやく遊ぶようになりました。でも獣舎ではまだ

緊張するみたいで部屋に入っただけでボクのおうちじゃもん」今でもカツは昼間だけ獣舎で過ごし夜は室内で寝ています。私はそれでええと思うとります。カツはまだ1歳にもならない子グマです。こんな小さな子グマを獣舎を建てたからと言って突き放すことは私にはできません。噛んで遊べるように消防ホースを巻いてみたり、いろいろバージョンアップしながら私たちも共に成長しています。まんまいるいカツの後ろ姿…お腹がいっぱいだとカツはおとなしく消化に専念している感じです。

私たちはそれ相応の覚悟



本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。



を持つてカツを引き取ることを決めました。私たちの目の前でヘソ天で平気で寝るカツはまだ小さくそれだけ私たちの責任は重く大きいということですが危険な動物である特定動物のツキノワグマを引き取って4ヶ月が経ち、ようやく日ごろよりご支援いただいている皆さまに《落ち着いた様子》をご報告できる運びとなりましたこと…私は心底嬉しく思っております。私たちと同じ命です。どうか温かくカツの成長を見守っていただければと思います。

NPO法人 (特定非営利活動法人)
犬猫みなしご救援隊
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711

みなしご通信のバックナンバーは、公式ページ
(http://www.minashigo.jp/newpaper/index.html)に掲載しております。

スマホをかざすだけで募金ができる



かざして募金



ソフトバンクの「かざして募金」、ジャパングビングで寄付ができます。

(https://japangiving.jp/supports/1281) 皆さまからのご支援、よろしくお願いたします。